

■ 資源・エネルギーの使用削減

● 鉄道部材のリサイクル

使用後のPCまくらぎや保守作業で発生した銅線くすや鉄線くすなどの処理は、特定リサイクル会社に委託しています。

また、密閉式ニッカド電池・ニッケル水素電池・リチウム電池・小型シール鉛蓄電池などは他の電池と分別収集のうえメーカーに返却し、リサイクルを行っています。



● ゴミのリサイクル

駅のホームのゴミ箱を「新聞・雑誌」「カン・ビン・ペットボトル」「その他のゴミ」に分類。お客さまにゴミの分別に協力していただいています。

2005年度は2,338tが回収され、そのうち新聞やカン、ビンなどはリサイクルされています。



● 乗車券のリサイクル

お客さまに購入していただくきっぷ・カード類に関してもリサイクルを推進しています。使用済みのきっぷに関しては、自動改札機を通して回収後、パルプと磁性体に分離して古紙として再生しています。当社では、京阪線全駅と改札内にトイレがある大津線の7駅のトイレに、きっぷをリサイクルしたトイレトーパーを設置しています。



● 洗車時における節水

車両を洗車する際には、汚れの場所や程度に応じて前面洗車・側面洗車・洗車中止などに分類したほか、汚れの程度に応じて洗車速度をコントロールすることで効率的に水を使用し、使用量を削減しています。



● 石油使用量の削減

非常用発電機の実負荷試験の回数を削減したほか、運転時間の削減により重油の消費量を削減しています。



Environmental Report 2006

鉄道事業における取り組み

● ヒートパイプ整流器の導入

ヒートパイプ冷却整流器は、冷媒が水と水蒸気だけの環境に優しい設備です。従来の整流器は、地球温暖化ガスである代替フロンを冷媒として使用した沸騰冷却方式で、環境負荷が大きいとされていました。

従来型よりエネルギー損失が約30%低減され、設置面積も少なくて済むことから、省エネルギー・省資源化にも寄与しています。

2005年度に天満橋変電所の1号整流器設備にヒートパイプ冷却式整流器を導入しました。



▲ヒートパイプ整流器

■ 廃棄物の適正処理

● 微量PCB混入変圧器等廃棄物の保管管理

1998年2月淀車庫内にPCB[※]保管庫を建設し、PCBが混入されている変圧器などの保管管理を行っています。2006年度には大阪市に処理施設が開業する予定で、以降は10kg以上の変圧器・コンデンサの処理が可能となるため、当社保管分についても処理を進めていきます。



▲PCB保管庫内の廃棄物機器保管状況

※ポリ塩化ビフェニル(PCB)は、電気絶縁性が良く燃えにくいことから変圧器などに広く使用されてきましたが、1968年にカネミ油症事件が発生し、1972年にPCB絶縁油の使用が全面的に中止されました。事業者が変圧器等の処分をする場合は、PCB混入の有無について確認し、混入が確認された場合はPCB廃棄物として適正に処分することとされています。

エコプラス1 eco+1

● 駅のバリアフリー化

体の不自由な方にも快適に鉄道を利用していただくために、エレベーター、エスカレーターや車いす用スロープ、階段昇降機、身障者対応トイレなどの設置を進めています。

2005年度には、天満橋駅にエスカレーターを増設、枚方公園駅にスロープを新設したほか、六地蔵駅と八幡市駅の車いす兼用階段昇降機の更新を行いました。



● ICカードシステム「PiTaPa」の導入

現在の主流である磁気カードおよびプリペイドカードをICカードに置き換えることにより、使い捨てられるカード本体の産業廃棄物の減少や、駅務機器の機械駆動減少による省エネルギー効果が期待できます。

また利用範囲の拡大により、利便性を高めて鉄道利用の促進を図ります。

